

告示	番号	35	慢性心疾患
	疾病名	心室瘤	

心室瘤

しんしつりゅう

概念・定義

先天性または後天性に心室にできた憩室用の膨隆。膨隆部の壁は心内膜、心筋、心外膜の3層構造のこともあるし、線維化組織のこともある。先天性のものは前者が多く、心筋梗塞後の心筋壊死に起因するときは、後者が多い。破裂のリスクがあり、右室憩室は手術適応があれば手術、左室瘤は手術困難で難治性の疾患である。憩室切除後に縫合部瘢痕から不整脈が出現することがある。憩室の過切除で心不全になることもある。生涯の経過観察が必要な疾患であるが、予後は不明。

症状

瘤が大きいと易疲労など心不全症状。無症状のこともある

治療

治療するなら外科的治療しかない。手術適応は、合併奇形があれば、その疾患に対する治療の適応に準じる。憩室自体に対する手術適応は、心不全や心機能障害の原因となっていたり、破裂のリスクが高いと判断される場合には適応となる。憩室の大きさによっては、切除困難のこともある

抜粋元：http://www.shouman.jp/details/4_17_21.html